

登録コード	MA750600	開講年度	2026				
授業科目名	感染生体防御検査学特論				担当教員	松本 竹久 他	
英文授業名	Special Lectures in Infection Control and Biological Regulation				副担当	樋口 由美子	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限 月曜・4時限	対象専攻 / 学年	病因・病態検査学領域 / 1年次
講義室	保健学科 1 2 1 講義室		授業形態	講義	授業科目区分	選択科目	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS 2 6カリ(保健学), MS 2 5カリ(保健学), MS 2 4カリ(保健学), MS 2 3カリ(保健学)						
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。				感染防御機構やその解析技術について理解し、基礎的および臨床的な観点から感染制御を理解できるようになる。		
(2)授業の概要	21世紀は、再興・新興感染症が注目されるなど感染症の時代と言われ、病原体のバイオテロのツールとしての危険性も指摘されています。 一方、DPCシステムが本邦でも導入されるに至り、良質な医療保証のための基本であるとされる院内感染制御が重要視されています。 感染防御と免疫学的な関係など、感染から身を守る巧妙な生体の防御機構を理解し、科学的根拠に基づいた感染防御対策を論理的に遂行・評価するために必要な知識・技術に関する事項について教授します。 本授業は、担当教員の医療機関における医療職としての実務経験を活かし講義、演習を行います。						
(3)達成目標（一般学習目標G I O）	・ 国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できるようになる。 ・ 感染症対策の知識を深め、新たな研究と診断法開発に取り組むことができるようになる。 ・ 院内感染対策活動の進め方、組織作りと役割分担について理解できるようになる。 ・ 疾患別院内感染予防対策について、また部署別院内感染予防対策について、特に臨床微生物学的視点から感染制御活動に参画して行く為に必須な事項について列挙することができるようになる。 ・ 感染症起因微生物と宿主因子(熱ショック蛋白質と細胞骨格)との相互作用およびアポトーシス誘導現象について、病原性との関連性を説明できるようになる。 ・ 感染症微生物検査に必要な蛋白質解析の基礎技術ができるようになる。						
(4)達成目標（個別行動目標S B O s）	・ 臨床微生物学・免疫検査学等の感染症に関連する科目の知識が総合的・系統的に理解できるようになる。 ・ 感染症の症例を微生物学のみならず、関連する専門科目の知識と総合して考えることができるようになる。 ・ 感染症対策へ向けて、地域や国家レベルでの対応の必要性を理解することができるようになる。 ・ 感染制御分野における「臨床検査技師像」を確固たるものにして、目指すべき方向性を考えることができるようになる。						
(5)授業計画	第 1 , 2 回（ 9月28日）薬剤耐性菌制御学1（松本） 第 3 , 4 回（10月 5日）薬剤耐性菌制御学2（松本） 第 5 , 6 回（10月14日）薬剤耐性菌制御学3（松本） 第 7 , 8 回（10月19日）薬剤耐性菌制御学4（松本） 第 9 , 10回（10月26日）医療関連感染1（松本） 第11,12回（11月 2日）医療関連感染2（松本） 第13,14回（11月 9日）感染症症例解析1（松本） 第15,16回（11月16日）感染症症例解析2（松本） 第17,18回（11月26日）免疫検査技術1（樋口） 第19,20回（11月30日）免疫検査技術2（樋口） 第21,22回（12月 7日）免疫検査技術3（樋口） 第23,24回（12月14日）免疫検査技術4（樋口） 第25,26回（12月21日）免疫検査技術5（樋口） 第27,28回（ 1月 4日）免疫検査技術6（樋口） 第29,30回（ 1月18日）免疫検査技術7（樋口） 第31,32回（ 1月25日）試験・総合討論（松本・樋口）						
(6)授業の進め方	eALPSに掲載された講義資料や論文などを使用し、課題についての討論方式による双方向性の講義を展開します。						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	英語論文を教材とする場合は、あらかじめ論文を指定します。 事前学習として、指定した論文について内容を理解し、疑問点や課題を見出す。						
(8)成績評価の方法	レポートの内容（50%）と、課題のプレゼンテーション（50%）を総合して評価します。						
(9)成績評価の基準	【レポート・プレゼンテーションの評価基準】 課題の目的・方法・結果が正確に記述されていれば「水準にある」、目的・方法・結果のより詳細な記載があり、且つ考察が理論的に展開されていれば「やや上にある」、考察に論文の引用や自分の見解が提示されていればその程度に応じて「かなり上にある」～「卓越している」と評価します。 成績評価の判定基準は、90～100点が秀、80～89点が優、70～79点が良、60～69点が可とします。						

(10)学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	個別の相談は,事前の連絡によって随時,対応します。 (松本) e-mail ; tmatsumoto@shinshu-u.ac.jp (樋口) e-mail ; sasa0922@shinshu-u.ac.jp
【テキスト,教材,参考書】	教科書は,特に指定しません。